

令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・英作文活動の継続により、自由英作文の技能に成長が見られた。また、長文を読み取り要約する活動の継続により、長文の理解にも成果が見られた。(第2学年)
- ・言語活動や反復練習の継続により、音声での理解に成長を感じているが、学習効果測定の結果には表れなかった。(第3学年)

(2) 課題

- ・状況に合わせて適切な英作文をすることに課題が見られた。Q&A問題や、課題に対して英作文で答える問題を繰り返し、状況に合わせて英文を使い分けることに慣れさせていく。
- ・既習済み文法の定着に課題が見られた。反復練習や復習を通して、自分の力で文が書けるよう基礎力を定着させていく。(第3学年)

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎・応用、領域別正答率ほどの項目も目標値を超えている。日常会話の聞き取りが目標値を下回っている。	/	/
第2学年	基礎・応用、領域別正答率ほどの項目もほぼ目標値と同等である。内容別では、提示された情報を元に適切な英語で答える問題が目標値を下回っている。	基礎では目標値を上回ったが、活用の一部のリスニング問題と「英作文」では目標値を下回った。	/
第3学年	基礎・応用、領域別正答率ほどの項目も目標値を下回っている。内容別でも目標値を下回っているが、特に「語形・誤報の知識理解」と英作文をして答える問題が大きく下回っている。	「リスニング(内容理解)」、「語彙の知識・理解」は達成率よりも△であるが、記述式の問題は目標値に届いていない。	すべての項目で目標値を上回っている。基礎は△であるが、活用に関して▽なので、基礎を伸すことで目標値を超える。

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っているが、日常会話を聞いて適切に答えることが苦手である。	状況に応じて英文で答えることが苦手としている。短い文の聞き取りや、ある程度自由な設定で英文を書くことは得意である。	記述問題では取り組む意欲が高いことがわかった。その一方で、英語を書く記述問題の内容で、生徒の能力差があることもわかった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っているが、対話を聞いて適切に答えること、語形・語法への知識・理解は不十分である。	状況に応じて英文で答えることが苦手。聞き取りや、ある程度自由な設定で英文を書くことは得意である。	主体的に学習に取り組む態度 英作文への無回答が目立ち、英作文へ取り組む意欲が未だ不十分であることが分かる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどの項目で下回ったが、語彙の知識・理解は十分にあった。	目標値を下回っている。特に、並べ替えを含めた英作文で答える問題が苦手なことが目立つ。	主体的に学習に取り組む態度 英作文への無回答が多く、英文を書くことへの苦手意識が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
反復練習で基礎的な語句や文法を身に付け、発表を通して語句や文法が定着するよう指導していく。	言語活動やペアワークに嗚呼く取り組ませることで、表現力を身に付ける。また、ペアでの会話を通じてリスニング力を伸ばす。	主体的に英語を話したり表現したりできる活動を増やし、基礎的な学習事項の定着を図る。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新たな文法事項が登場する際に、語形や語法に関して復習を行う。QA問題を継続して行い、解答方法について習熟させる。	状況設定を与えて英文を書かせる課題を与える。QA問題を解説する際に、解答方法を選択するポイントを重点的に説明する。	主体的に学習に取り組む態度 短い英作文を書く活動を継続して行い、それに対するフィードバックを行っていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語テストを実施し語彙不足を補うことを継続するとともに、毎回の文法課題と文法テストを継続し定着を図る。	言語活動やペアワークを継続し、表現力を向上させる。長文問題と英作文への苦手意識をなくすよう、特に下位層に焦点を絞って指導する。	主体的に英語を話したり表現したりできるようにするために、基礎的な学習事項の定着を図る。